

式 辞

気配で季節の到来を予感する、これまで脈々と受け継がれてきた自然の営みも端境期を迎えているような昨今ですが、それでも校庭を吹き抜ける風に、冷たさの中にも旅立ちの思いを包み込む優しさが感じられるこの頃です。

本日は、滋賀県議会議員の皆様をはじめ、学校評価委員の皆様、学園関係者の皆様のご臨席を賜り、また保護者の皆様にご出席いただき、ここに令和5年度卒業証書授与式を執り行うことができますことは、私ども教職員にとりまして、大きな喜びでございます。高段からではございますが、皆様方にお礼を申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうでございます。心よりお祝い申し上げます。コロナ禍の不安を抱えたまま始まった高校生活でしたが、卒業証書授与式に臨む自信と誇りに満ちた表情とをご覧になり、感無量の思いをかみしめておられることと拝察いたします。これまでのご努力に対し深く敬意を表しますとともに、三年間本校の教育に多大なご支援とご協力を賜りましたことにつきまして改めて厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました普通科一七九名、生活デザイン科四二名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。三年間にわたる努力が実を結び、ここに晴れて卒業の日を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。

令和5年度が始まった始業式で、私は皆さんに『Good Luck』という本を紹介しながら、次のような話をしました。【幸運のストーリーは絶対偶然には訪れない、幸運をつかむには自ら下ごしらえをする必要がある。幸運を作るというのは、その条件を自分で作り出すことである、だから、どんな状況にあっても、諦めたり解決を先延ばしにしたりしないで、地道に準備を重ねていくことが大切なのです】、と。

晴れて卒業を迎えられました皆さんに、改めてこの言葉を贈りたいと思います。

誰しも自分の望む結果を手にしたと思います。そして当然ながらそのためには、結果を手にするだけの過程が必要になります。それが下ごしらえですが、それはやったからと言って、必ずしも結果につながるわけでもありません。幸運を手にするための努力は、何の保証も伴わないのです。それでも、自分の目指す「まだ見ぬ風景」を求めてひたすら努力を続けることしか、道はありません。また、こうも考えられます。下ごしらえとは、結果に対してあらゆる言い訳を排除していく取り組みだと。そう考えると、「準備をすること」「下ごしらえをすること」というのは、本当に厳しい過程だと思うのです。だからこそ、皆さんは、あふれんばかりの若さを武器に、自分が信じる結果を求めて、諦めることなく前に進んでほしいと思います。

これまで、ことあるごとに伝えてきました。「ゴールは決して逃げては行きません」と。皆さんが残してきた一步一步は、そのどれもが皆さんを高みに導くものになったはずです。苦しくて後退した一歩でさえ、長い目で見れば、ゴールに近づくためには不可欠な一歩であったはずです。皆さんの高校生活に無駄などなかったのです。1061日という時間のすべてを財産として、きょうから、明日のための一歩を踏み出してください。

このような思いを述べるのも、皆さんの前向きな高校生活を見てきたからです。時に軋轢もあったでしょう。やるせない思いになったこともあったでしょう。けれども、そういう経験を糧に、工夫と粘り強さを支えに、前に前にと進まれました。3年生になり、それぞれが自己実現を目指して、自分の想いと正面から向き合い、一心不乱に勉学に打ち込む姿には本当に心を揺すぶられました。先輩方から受け継がれた、スタディラボの、あの怖いくらいの緊迫した空気は、今ではもう、間違いなく本校の「いつもの風景」になっています。穏やかに、しかし内心に熱い思いを込めて過ごした日々を見てきた私は、明日のために自分の意思で踏み出される一歩を確信しています。

今や「AI」や「チャットGPT」が時代を席卷しています。明らかなことは、そういう社会の中で生きていかなければならないという事実です。技術革新によって、社会生活が快適になることは素晴らしいことです。そのとき、「豊かさ」とは

何かを同時に問いかけておくことも大切なことです。一方で時代を受け入れながら、人が時代と向き合うとき、人の存在を慈しむ気持ちを持ち続けることの大切さはいつもと忘れないでください。あなたの隣にいる人にそっと寄り添う気持ちをもってください。寄り添える人はひとりかもしれません。しかし、みながそれをころがければ、どれだけ多くの人が、人の温かさの中で生きていけるでしょう。今こそ、「時代がいかに移り変わろうとも人間の魂に流行はない」と語られた本学創設者の心根と向き合う必要を感じます。

ここで、もう一度、保護者の皆様一言ご挨拶申し上げます。この卒業式に合わせて発行いただきましたPT通信の「保護者メッセージ」の一つひとつに目を通しました。行間から伝わるお子様への思いの深さをしみじみと感じております。苦楽をともにしていただきましたことに改めて感謝申し上げます。

高校卒業を境に、社会での立ち位置は大きく変わっていきます。それは時に「責任」「自己管理」などという言葉で語られるかも知れません。また、「自立」という表現をもって成長を促すものとなることもあるでしょう。「自立」これは、いかに適切な依存先を多く持っているかという対処の裏返しでもあります。このことは三年間の進路指導を通して、折に触れて進路指導部からお話ししてきました。今後ともご家庭が更なる飛躍のための貴重な依存先であり続けていただけるようにと、お願い申し上げます。

卒業生のみなさん、いよいよ次なる舞台があなた方の前にあります。私たち教職員は寂しさが募る卒業式ですが、皆さんは、きょうを区切りに、自分の十八年の軌跡を財産に、前だけを向いて進んでください。十分な準備、それをもう一度ここでお伝えし、しかしうまくいくかどうかなど、わからないのですから、そんなことより、今の自分を大切に、自分のペースで生きていってください。何より命を大切に健康に留意され、「私らしく」素敵な道を進まれることを期待し、皆さんの前途に幸多かれと祈念し、『式辞』といたします。

令和六年三月一日
学校法人純美禮学園
滋賀短期大学附属高等学校 校長 小林昌彦